

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172500274		
法人名	有限会社 地人協会		
事業所名	グループホーム ポランの家(1階ユニット)		
所在地	余市郡余市町大川町8-11		
自己評価作成日	平成22年11月17日	評価結果市町村受理日	平成23年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172500274&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①介護理念である「尊厳性の保持」の具体的なケア場面における実践 ②運営理念である職員の「自主管理」的考え方の実践。主体的に生活支援課題を発見し、そして考へ他の職員と合議し協働の実践。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表(管理者)が余市グループホーム協議会の会長であり、日頃から町の行政担当者とは各種相談や情報交換を行うなど、活発に行政、警察署、消防署との連携に力を入れています。災害対策も避難方法のほか、避難後の多くのことを予測しながら、他の福祉施設間で協力体制を整えています。北後志10グループホームが、災害時に連携協力体制が図れるように提携するなど、積極的な取り組みをしているホームです。管理者の「多くの人々が楽しく集う家で、互いに助け合い、その人らしい生活を支援する」をテーマとする介護への思いや理念を職員と共有し、家庭的で明るい雰囲気の中、利用者の尊厳性の保持を大切に日々のケアに取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者とは職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のカンファレンス時、具体的場面で理念の共有化に努めている	介護理念や運営理念として尊厳性の保持を大切にしながら実践しています。また、管理者や職員はその理念を共有し、職員の自主性を主体に取り組んでいます。	管理者や職員は理念を共有し、日々実践していますが、今後は、より噛み砕いた言葉にして、職員が覚えやすい言葉にしていくことや、いつでも目につく場所に掲示していく事を検討していますので、その取り組みを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とつながりは、「挨拶から」という考え方で、ホームの前で朝あつた方は地域の方と思い挨拶をするようにしている	町内の方々が来訪され、押し花や童謡を歌うなど、日常的に交流が行われています。職員は地域の草刈りやゴミ箱を溶接するなど、地域との良好な関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的にホームの機関紙を発行しているが、それを町内会の方にも配布し、このことに努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	特に健康状態とその支援について報告すると共にホームの理念をご理解いただけるよう努めている	2ヵ月毎に定期的に開催し、ホームの現状報告、外部評価での課題、防災の地域連携等が活発に協議され、ホーム運営に反映されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営基準の解釈や疑問点を行政担当者と密にとりあっている	管理者が余市グループホーム協議会の会長であり、日頃から町の行政担当者と各種相談や情報交換を行うなど、連携が図られています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が拘束なのか「マニュアル」をファイル化し拘束の状態が発生しないよう努めている	身体拘束の定義を具体的に文章や写真で例示したマニュアルを作成し、管理者や職員間で十分に話し合い、正しい理解とケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護理念である尊厳性の保持と密接な関係性がある事柄であるため、特にこのことは管理者が注意を払っている。何が「虐待」なのかを含めて。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に管理者は研修会等に参加し、このことに努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族のみの見学、説明ではなく、ご本人にも感覚的に安心して生活できる場所としての説明と自己決定を重視している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族のご来訪時、あるいは運営推進会議メンバーの家族代表からもお気持ち、意見等を聞く努力をしている	家族の来訪時には職員が近況報告をし、看護師は身体状況を報告するなどの関わりの中で、意見や要望の把握に努め、運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階のチーフをとおし、ボトムアップを図っている	日々の業務での報告、連絡、相談の中で、職員の意向や提案を把握しています。その都度話し合い、意見や提案を運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年制の廃止、ホーム独自の看護・介護休暇制度をつくり労働環境の改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	具体的ケア場面でスーパービジョンの実践と研修参加の啓蒙に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士の協議会に加盟して交流を深めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、特に1週間ここは安心して住めるところだということが感覚で判るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に将来的なことについて不安をお持ちの家族が多いため、このことについてホームの考え方を伝え、安心して頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に、このことは利用者の立場に立つと見方、感じ方が変わるという認識のもと努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	この認識がなければ、独善性はまのがれないと考えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	心の歴史を極力理解し、このことに努めている	通いなれた医療機関への通院支援のほか、毎月の命日や墓参りなど、入居前の関係や生活の継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング内のソシオメトリーの把握に努め安定した生活ができるようリビングサポートに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	配偶者が亡くなり独居生活などになった場合、ホームがインフォーマルな関わりで持っていたケースなどをフォーマル化するなどこのことに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握し、ご本人の口からでる言葉を結びつけ、心象世界を探ることに努め、このことに対応できるよう努めている	日々のケアや会話の中から、汲み取るように努めています。表情や仕草から予測することや心に寄り添うことを大切に支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族のお話、或は介護認定調査票の複写による把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル管理・温度表管理とう日動変化の波を把握しながらその現状把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のカンファレンスを総括する形でモニタリング、アセスメント、プランニングの手順を踏んでいる	定期見直しのほか、変化があった際には、医師、看護師、家族に相談しながら、状態に応じて随時見直しています。ホーム独自の記録様式を作成し、共有しやすい工夫がされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	同上及び介護記録で実践		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者を生活者と位置づけているため、定型的生活などないと考えていません。キャパシティを広くもとうと考えています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この問題はグループホームの性格上、医療機関との関り程度である		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医は継続し、既往歴。現在病も含め、安心して健康管理ができるよう支援している	入居前のかかりつけ医に同行し、通院支援をしています。提携医の往診も月2回あり、体調や希望に応じて受診することができます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎朝のカンファレンスに参加し、介護員からの報告をうけこのことを実践している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は頻繁に職員が訪室し、現状を把握しながら、家族と共にムネテラを受け、医療情報を共有することを努めている。また施設機能の変更もありえるため、所謂老人医療機関との関係構築には努力している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族ケースワーク、主治医とのムネテラをとおしこのことを実践している	重度化や終末期に向けた対応指針を説明し、同意書をいただいています。状況に応じて、家族や関係者と段階的に話し合い、方針を共有しながら、支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会参加、急変時の夜間対応など（看護師への連絡・救急車の手配）マニュアル化している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施と、福祉施設間どうしの協力体制の構築実践	避難方法のほか、避難後の多くのことを予測しながら、他の福祉施設間で協力体制を整えています。北後志10グループホームが、災害時に連携協力体制が図れるように提携しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当ホームの介護理念であるため、このことは職員がお互い注意を払いあい実践している	尊厳性の保持について、日々話し合い実践しています。個人記録などの記録類は、適切に管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	論理的な自己決定はなかなか困難だが、ご本人の感覚を大切にしたいと考えている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員も入居者の方たちの時間的波長に合わせる努力をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	老いて行く「疎外感」を軽減するため身だしなみには気をつけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事も大事な日常生活なので、ホテル家族ではなくコンテナ家族的方向に努めている。あくまでも楽しみながら。	職員と利用者が一緒に食事準備や片付けを行い、食事中は職員が同じ食事を取りながら、会話を交わし、明るい雰囲気の中で支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を毎日記録しながら栄養管理・水分管理・健康管理に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出きる・不十分・出来ないなど能力面を見ながらこのことに努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録の中でその方のパターンを把握し、不快状態の軽減に努めている	排泄チェック表を参考に一人ひとりのパターンを把握し、声かけや誘導をしています。心理面にも十分に配慮しながら、排泄の支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録の中で、毎朝下剤等の調整をしている。ここに乳酸菌を飲むなど工夫している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調・気分に合わせて入浴をして頂いている	全身シャワー設備があり、利用者の体調や意向に合わせて、週2～3回の入浴支援を行っています。入浴を拒む場合にも一人ひとりに合わせ、工夫をしながら支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	人間のバイオリズムを考え、一日の流れを考えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に薬が変更になったような場合、その変化について十分観察する事につとめている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中から、メリハリのある生活はその人にとっては何なのか、理解し実践するよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	十分ではないので、継続して努めている	散歩や買い物などのほか、玄関前での日光浴は利用者の気分転換になっています。一人ひとりの要望に合わせて、誕生日の夕食も楽しみ事の一つになっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使うか使わないかは別として、金銭を持つという安心感を考え、小銭の入った財布は大方の人は持っている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信の保障、人権と言う考え方で支援している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい環境は、心地よい精神状態になると考えている。このためこのことには日常的に努力している	居間、トイレ、浴室などの共有部分は、ゆったりと余裕があります。壁面には、職員の手作りによる飾りや作品が貼られ、季節感のある飾りもあり、明るく家庭的な雰囲気となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングサポートの中で、落ち着く場所を重視している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間は家族的安定欲求の一つでもあるため、和む空間づくりに努めている	居室は、利用者の馴染みの調度品が持ち込まれ、居心地良い空間を実現させています。大きな収納にはロールカーテンを使用し、壊れづらく、開閉しやすい工夫がされています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を考えながら、認知症の方も使い勝手が良い様に工夫している			